

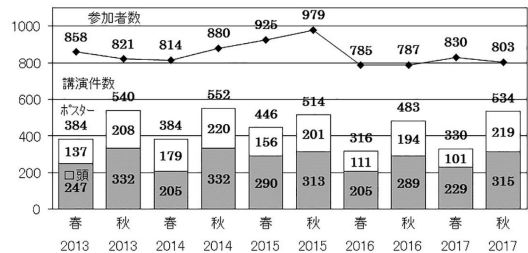
2017年度秋季大会の報告

2017年度秋季大会は、北海道大学学術交流会館・クラーク会館（札幌市北区北8条西5丁目）を会場として2017年10月30日（月）～11月2日（木）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は803名であった（第1図）。

大会期間中は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する6の専門分科会が行われた。講演件数は、一般講演445件（ポスター219件、口頭発表226件）、および専門分科会89件、合計534件であった。また、会期中およびその前日に、個別のテーマによる4件の研究会が開かれた。

2日目午後には、北海道大学学術交流会館において授賞式が開催され、堀内賞が杉本伸夫氏と青木 茂氏に、正野賞が小坂 優氏と國井 勝氏に、山本賞が大野知紀氏と大畑 祥氏に、奨励賞が秋山佳明氏と阿部豊雄氏と奥村政佳氏にそれぞれ授与された。授賞式の後、堀内賞、正野賞及び山本賞の受賞記念講演が行われた。3日目午後には、北海道大学学術交流会館において大会シンポジウム「北極域」が開催され、5件の基調講演と総合討論が行われた。

近年の秋季大会では、講演者数が多い状態が続いていたため、一人当りの発表時間が10分にも満たないことが多く、大きな問題となっていた。講演企画委員会では、これまでの大会アンケートの結果や各自の発表経験等から、質疑応答込みで15分を理想としてきた。今大会は、実行委員会のご尽力により、4日間の開催



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（ポスター、口頭（専門分科会を含む））。

を実現することが出来たおかげで、12分の発表時間を設けることが出来た。また、今大会では、初の試みとして、実行委員会の発案による領収書や参加票の事前送付が行われた。大会参加者からは、大会当日の朝に並んで受付をする手間が省けて良かったという声を聞いている。

会員の皆様には大会全般に関するアンケート調査にご協力頂きました。誠にありがとうございました。

今大会の開催に当り、5の企業・団体からご出展・ご協賛を頂きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、今大会実行委員として大会準備・運営にご尽力頂いた北海道大学、札幌管区气象台、日本気象協会北海道支社、酪農学園大学をはじめとする北海道支部の皆様へ深く感謝の意を表します。

2017年12月 講演企画委員会